

# 国指定史跡

しんぽういんやま こふんぐん

# 新豊院山古墳群



昭和 62 年の国史跡指定時の状況（西から）

磐田市教育委員会



# 国指定史跡・新豊院山古墳群とは

むかさたけのうち 向笠竹之内地内にある曹洞宗寺院・鷲溪山新豊院北側の標高約 70mの尾根の先端部に築かれた弥生時代から古墳時代の墳墓群です。新豊院山古墳群には、古墳時代初頭（約 1,700 年前）の台状墓《3号墓》や古墳時代前期（約 1,650 年前）の前方後円墳2基《1・2号墳》、弥生時代中期（約 2,100 年前）の墓も分布しています。

新豊院山古墳群は、昭和 55～57 年に発掘調査が行われ、一つの尾根上で弥生時代から古墳時代前期にかけての墓の移り変わりを知ることができる貴重な遺跡として、昭和 62（1987）年に、国の史跡に指定されました。

## 市内最古級の前方後円墳

磐田原台地東縁部にある新豊院山古墳群では、中心部の発掘調査を行った2号墳が、市内最古級、静岡県内でも古い時期の前方後円墳であることが確認されています。前方後円墳は、古墳時代初頭に当時の中心地である近畿地方で造られはじめ、その後、全国の多くの有力者に採用されました。2号墳の主はいち早く近畿地方の王と交流を始めた先駆的な人物で、市内東北部を治めた有力者でもありました。

### 1号墳

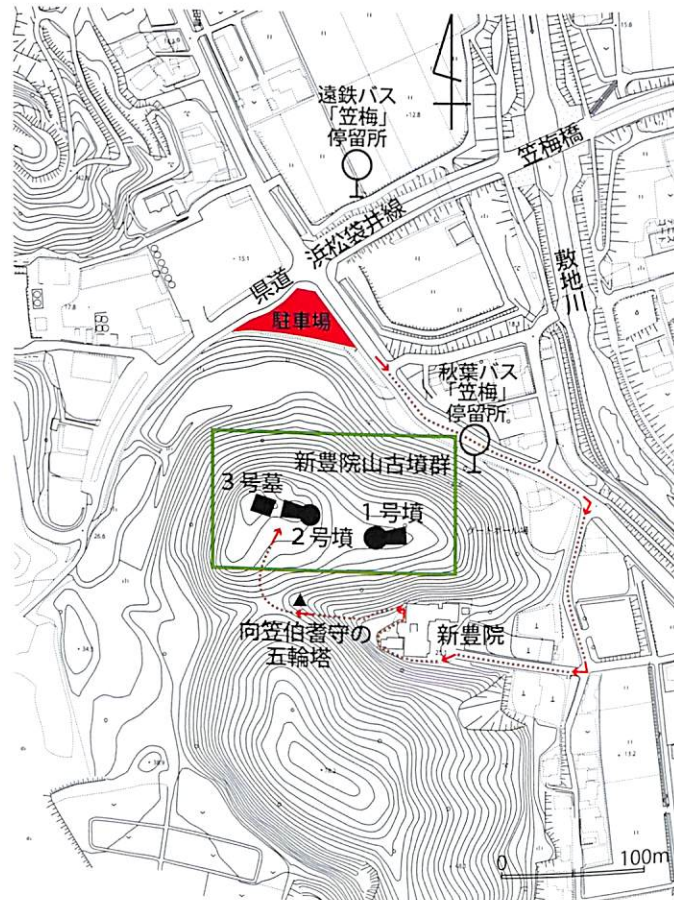
全長36mの前方後円墳です。部分的な調査であり、主体部（墓の主の遺体を納めた場所）は発掘していません。2号墳よりも東側の見晴しの良い場所に築かれています。2号墳に続いて造られた古墳だと考えられます。

### 2号墳

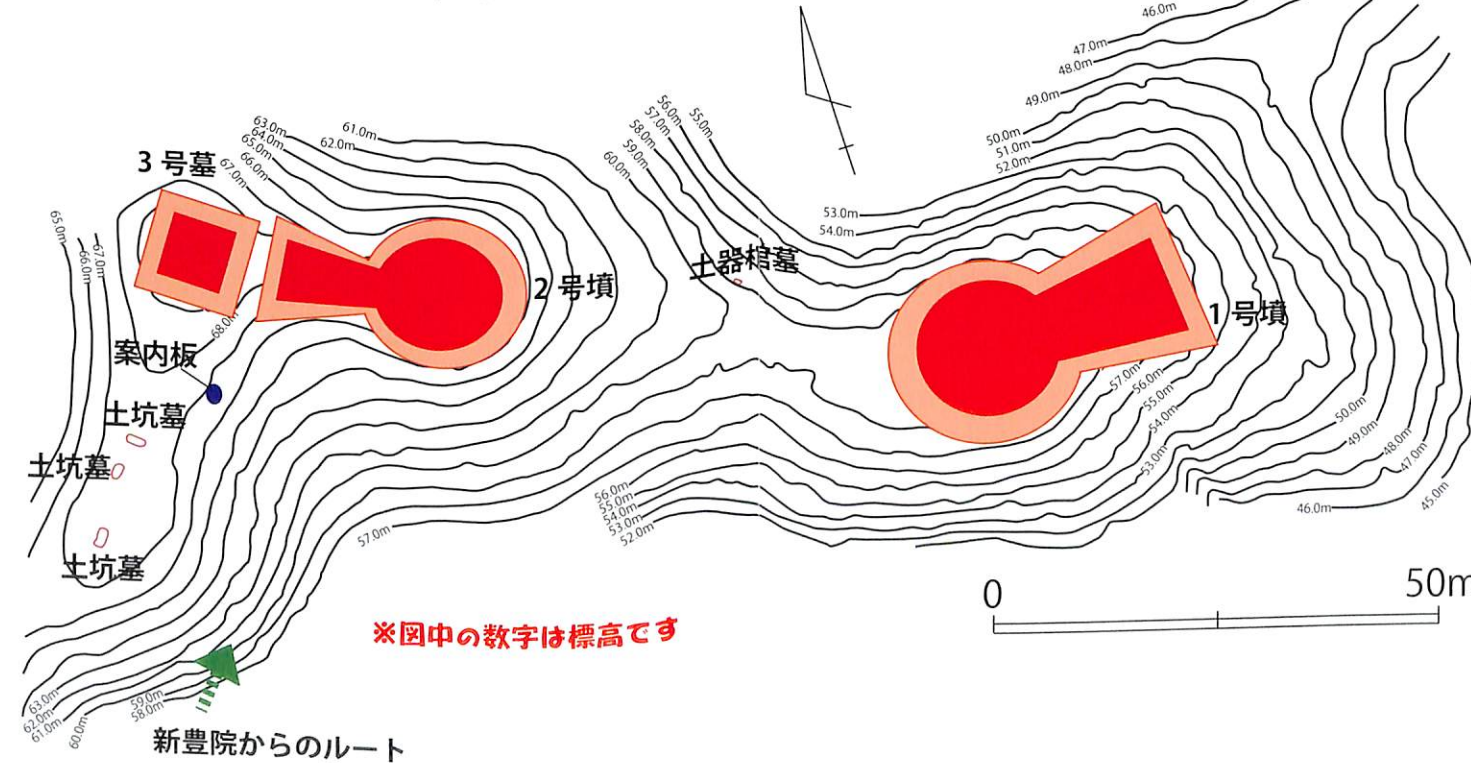
全長28mの前方後円墳です。主体部は、後円部に墓坑を掘り、中央に礫と粘土を交互に積んで棺を納める部屋を造っています。円礫を敷き並べ、上に粘土を貼り床面としています。棺は板を組み合わせて箱形にした組合式木棺と推定されます。



2号墳の主体部《東から》



新豊院山古墳群周辺の地図



新豊院からのルート



2号墳の棺内遺物の出土状況《東から》



2号墳主体部出土の青銅製のヤジリ

## 2号墳の出土品

2号墳からは、棺があった場所で鉄製のヤジリ・剣・槍・刀、青銅製のヤジリ・鏡が出土しました。墓坑内の棺以外のところでも、鉄製のヤジリ・剣短刀、青銅製のヤジリ・小型鏡が見つっています。当時、金属で作った道具はとても貴重でした。2号墳の主は、これらの金属器を近畿地方の王たちとの交流を通して手に入れていたと考えられます。



2号墳出土の三角縁神獸鏡（背面）

## 三角縁神獸鏡

2号墳主体部の棺内から出土した鏡は、三角縁神獸鏡と呼ばれるものです。この鏡は古墳時代前期の有力な古墳から多く出土しています。縁の断面が三角形をした青銅鏡で、背面に神や仙人、靈獸などの文様が表現されています。2号墳の鏡には、4人の神と4頭の靈獸が描かれています。また、下記の銘文が記されています。「吾作竟自有紀 壁去不羊宜古市 上有東王父西王母 令人長命多孫子」 「この鏡を持つ者は長命で子孫が繁栄する」という意味です。



### 3号墓

3号墓は、丘陵を四角形に削り出して造られた一辺約12mの墓です。古墳時代初頭の墓ですが、弥生時代の墓に似ていることから、古墳とは呼ばないことが通例となっています。この墓では、主体部から鉄製のヤリガンナ、剣等が出土しました。

### 弥生時代の墓

3号墓周辺を中心に、弥生時代中期の土器棺墓<sup>どきかんぼ</sup>や穴を掘って造られた土坑墓<sup>どこうぼ</sup>も見つかりました。



2号墳側から見た3号墓《南東から》



3号墓出土のヤリガンナ（左）と剣（右）



権現山2号墳の  
金メッキされた雲珠<sup>うす</sup>  
(馬の尻の上につけられた飾り金具)

### 新豊院山古墳群一帯の豊富な遺跡

新豊院山周辺の遺跡は4つの地点に分かれ、新豊院山古墳群が立地する尾根以外にも、縄文時代のムラや弥生時代の墓が見つかっています。

周辺の丘陵部には、屋敷山古墳群<sup>やしきやま</sup>、権現山古墳群<sup>こんげんやま</sup>、新屋原古墳群<sup>あらやばら</sup>などがあり、また、新豊院山から望める平野部<sup>とよりめん</sup>にも、年寄免遺跡など、古墳時代のムラがあったことが分かっています。向笠小学校付近にあった全長約18mの前方後円墳である権現山2号墳では、古墳時代後期(約1,400年前)の馬具<sup>ばく</sup>が見つかっています。

### 向笠伯耆守五輪塔

向笠伯耆守<sup>むかさほうきのかみ</sup>は、戦国時代、向笠城主として今川氏に属し、後、武田氏について徳川方と戦って亡くなったと伝えられます。

本堂裏手側の五輪塔<sup>ごりんとう</sup>は、戦死した向笠伯耆守を供養するために建てられました。



※新豊院本堂裏手側から新豊院山古墳群までは足場が悪いので、十分ご注意ください

**磐田駅発のバス**

遠鉄バス  
磐田駅北口2番乗場乗車  
(磐田市立病院線)「山梨」行  
「笠梅」停留所下車  
※停留所から徒歩10分

秋葉バス  
《土日祝日運休》  
磐田駅北口2番乗場乗車  
(磐田線)「笠梅」停留所下車  
※停留所から徒歩10分

※新豊院山古墳群周辺の道路状況、  
駐車場・停留所からの行き方は中ページの  
地図をご覧ください

編集・発行／磐田市教育委員会文化財課

〒438-0086 静岡県磐田市見付3678-1 (磐田市埋蔵文化財センター内)

TEL:0538 (32) 9699 FAX:0538 (32) 9764 Email:bunkazai@city.iwata.lg.jp

発行日／平成26年3月25日